



栃木県養護教育研究会が

ますます素晴らしい会になりますように

栃木県養護教育研究会会長 渡邊恵美子

平成29年6月27日(火)、県総合文化センターにて会員の皆様に御出席いただき、総会を無事終了することができました。ありがとうございました。本研究会は、長い歴史のある会です。これまでも多くの先輩方が本研究会に所属し、研究や研修を積み重ね、研究冊子等を作成されてきました。それら、多くの実績を引き継ぐ責任と重みを強く感じ、今後、この会をどのように進めるかについて、皆様と共に考えていきたいと思っています。

さて、本年度の活動についてですが、総会にて承認されましたとおり、定期研修会、レベルアップ研修会、会誌発刊等が計画されています。養護教育研究会の会員の皆様が結束し、更に成長していく会になることが一番ではないかと思っています。そのためには、皆様の御意見、想い、夢、希望、目標を吸い上げることはないかとも思っています。

本研究会の会長になるに当たりましては、総会でのあいさつでも述べましたように、これまで、会を支えていただきました県立学校の校長先生方には大変御尽力いただきました。言葉では言い表せないほどの深い感謝の念でいっぱいです。養護教諭から初の校長になった私が県の会長になったことについては、大きな節目と考えます。会員の皆様と共に、この会を、更にわかりやすく改善し、挑戦し続ける会にしていきたいと思えます。養護教諭のための、養護教育研究会を、素晴らしい会にしていきたいです。



地区だより(宇都宮地区)

栃木県立宇都宮女子高等学校 青木智子

宇都宮地区は小学校71名、中学校32名、高校・特別支援学校28名、合計131名の会員で構成されており、年間3回の研修会を開催しています。平成29年度は5月に、桜井産婦人科医院 桜井秀先生より「産婦人科医による女性アスリート支援」についてお話をいただきました。11月には市保健主事部会との合同研修会で、名古屋大学准教授 内田良先生より「学校リスクを『見える化』する 一組み体操から部活、働き方改革まで」と題して講演いただく予定です。また、毎年2月には市教育委員会との共催で研究大会を開催しています。この研究大会は、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、校長、教頭(副校長)、保健主事、養護教諭と参加対象が幅広く、毎年、保健主事部会と養護教諭部会からそれぞれの取組についての研究発表が行われています。平成28年度は、保健主事部会は中学校より「新任保健主事としての取組～養護教諭や各校務分掌と連携した取組の充実」についての発表、養護教諭部会は小学校部会より「健康教育の推進～養護教諭の特性を生かした授業へのかかわり方と執務について～」の発表がありました。研究発表後には、済生会宇都宮病院救急科の宮武先生より「学校内での救急医療対応について」というテーマで講話をいただきました。平成29年度の研究発表は、養護教諭部会から高校部会が行う予定です。また会報も年に2回(7月・3月)発行しています。第1号では、退職された先生方と新会員になられた先生方よりひと言を、第2号では県外研修に参加された先生方から研修報告をいただいています。本地区は大所帯のため校種間の交流を図ることはなかなか難しいですが、これからも会員の要望に応える研修を企画し、会員同士の親睦や養護教諭としての資質向上を目指し、実り多い研修にしていきたいと思えます。



関東甲信越静学校保健大会参加報告 (山梨大会)

研究協議『性に関する指導・エイズ教育及び薬物乱用防止教育』

茂木町立茂木中学校 永島 紀子

午前中は、日本人初の義足のプロアスリートであり、パラリンピックに5大会連続出場、入賞を果たした鈴木徹氏より「世界一ジャンプが好きな男の挑戦」との演題で特別講演がありました。ハンドボール選手として国体3位入賞を果たし、将来を嘱望された鈴木氏が、交通事故後、どのような出会いや心の葛藤を乗り越えて現在に至ったのか、そして、時にはコンプレックスが何にも負けない強い原動力となることや、『普通であること』の素晴らしさを教えていただきました。

午後は、5つの課題に分かれて班別研究協議が行われました。私は、「性に関する指導・エイズ教育及び薬物乱用防止教育」に参加させていただきました。提案Ⅰでは「特別支援学級における思春期教育」という主題で、障害児性教育ガイドブックの利用や男性教諭と養護教諭のTT、小中連携の継続指導の取組の紹介がありました。提案Ⅱでは「三部制単位制定時制高校における薬物乱用防止教育」という主題で、学校心理学の理論を取り入れ、薬物乱用のハイリスク者に対して個別に行った取組の紹介がありました。その後の研究協議も活発に行われました。

【指導助言】「性に関する指導・エイズ教育及び薬物乱用防止教育は、『チーム学校』として、多くの教職員、多くの関係機関と連携して進めること。」「児童生徒の『見とり・読みとり・聞きとり』の『3とり』をしっかりと行いながら進めること。」などがありました。

.....

研究協議『学校経営と学校保健』

さくら市立喜連川中学校 岸直子

1つ目の研究協議は、キャリア教育の浜松市教育研究校となったことをきっかけに、キャリア教育を視点とした学校保健の取組で「生徒の主体的な学びを大切にしたい生きる力を育む学校保健のあり方」をテーマにした静岡県浜松市立笠井中学校小野田先生の発表でした。①人間関係形成・社会形成能力（かかわる力）、②自己理解・自己管理能力（みつめる力）、③課題対応能力（挑戦する力）、④キャリアプランニング能力（つなげる力）の「育てたい4つの力」を重視した様々な学校保健活動の実践の紹介がありました。特に「心の日」の取組では、バースデーツリー作成やバースデーラインで異学年交流、「朝の健康観察」の取組では元気ですか？リレー、昭和31年から続く学校保健週間、家族すくすく会議などの取組が参考になりました。

2つ目は「健康課題解決に向けた連携のあり方 学校保健委員会の組織を生かした取り組みを通して」をテーマにした、群馬県沼田市立沼田東小学校鶴淵先生の発表でした。平成26年度の学校保健委員会のテーマ「歯と口の健康について考えよう」について、健康課題解決に向けて、学校保健委員会の組織や地域と連携し、年間に3回実施しているという内容でした。特に年3回の実施に向け、いつ、だれが、何をするか「1年間の見通し計画」を立てていました。ライブ配信での全校小学生歯みがき大会参加や歯みがきチェック、学校医や栄養士、歯科衛生士と連携した口腔指導により、5年生のG、GOの人数が3ヶ月で半数以上改善したとのことでした。

【指導助言】健康課題は、学校目標の重点目標を生徒の実態や社会情勢を組み込んでどのように位置づけるかが大切で、学校評価にもつながる。更に、学校経営の中で学校保健を効果的に運営していくためには、組織的、積み重ね、評価が大切であるとの指導がありました。



全国養護教諭連絡協議会研修会参加報告

【2日目】

栃木県立栃木工業高等学校 櫻井 絹子

『学校の先生に知っていただきたい耳鼻咽喉科疾患』

千葉こども病院 診療部長 仲野敦子氏

- 耳鼻科・保健調査票からわかること：難聴・睡眠時無呼吸症候群・嗄声(声帯結節等)・構音障害
- 様々な難聴：感音難聴(内耳に異常)は、大きな声で話してもわからない(音が割れてしまいよく聞こえない)。機能性難聴(本人から難聴の訴えあり・日常生活に支障なし・耳痛が伴うこともある)は心因性難聴のこともあるが、心因性難聴と突発性難聴の見分けは困難。補聴器を使用している生徒の座席は前から2～3番目がベスト(前の席の生徒の様子を見て、視覚でも情報を確認できる)。難聴の生徒はセンター試験で願書提出より前に申請すると英語のリスニング免除あり。

『しなやかさとやさしさを育てる支援の在り方～心の予防接種で免疫力を高めませんか』

法政大学文学部心理学科 教授 渡辺弥生氏

- ソーシャルスキルの考え方：性格のせいにはしない。今まで学んでいないためにできない→わかるように教えてあげる。その子がやれそうなことを具体的に指示して成功体験につなぐ。
- very good⇒good enough(まあこんなもんで)有用感(私役に立ってるよね)成長感(私成長してるよね)効力感(私やればできるよね)・・・不安⇒安心
- 困った子どもは困っている子ども。みんな自分の頑張りを認めてほしい。
- 心の筋肉を鍛えて、ネガティブ思考から抜け出す前向きの発想法をゲット。「私は～だ(自分の良い所) 私は～できる(自分でできること)、私は～持っている、私は～好き」を寝る前に3つずつ考える。リフレーミングの活用。



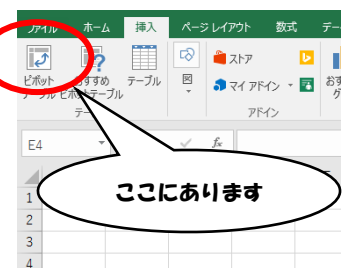
【3日目】

小山市立間々田小学校 中田 恵子

『超簡単！あつという間のクロス集計』～腑に落ちるアンケートデータの活かし方～

埼玉大学教育学部 教授 戸部秀之氏

- Excel のピボットテーブルを用い、アンケートデータの集計と分析の演習を行った。
- ピボットテーブルとは、Excel で「クロス集計」を行う機能。クロス集計は、2つ以上の項目についてデータの集計を行う集計方法。
- 「クロス集計」を駆使することでひとつのリストを様々な角度から集計することができ、データ分析を行うのに便利であることが理解できた。
- アンケート結果を生かした保健指導『中学生に対するインターネット依存と心身の健康に関する保健指導』という中学校の授業実践例も紹介された。



『いのちの授業～いのちを大切に育てる心～(がん教育)』

特定非営利活動法人 いのちをバトンタッチする会 代表 鈴木中人氏

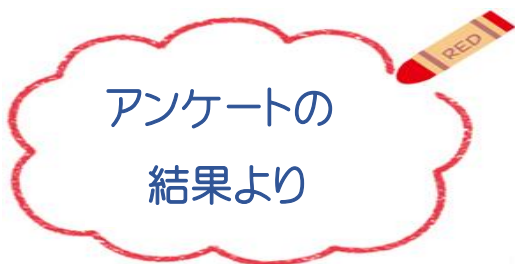
- 鈴木さんはお子さんを小児がんで亡くされた実体験を基に全国で講演をしている。
- いのちの教育は知識ではなく、心に届けること。⇒原点は「生まれてきてくれてありがとう」「産んでくれてありがとう」・・・性に関する指導と重なるところがある。
- 愛されている実感をどれだけ感じられるか⇒中学生では「産んでくれてありがとう」小学生では「名前の由来」など
- 全国に 16,000 名の子どもたちが小児がんと闘っていると言われ、その子たちにとって「学校に行ける」「先生や友だちに会える」ことこそが生きる力となっている。だからこそ、小児がんの正しい理解が必要である。
- いじめや犯罪、自殺などいのちを粗末にするニュースが報道される中、学校現場においても「いのちの授業」の重要性が高まっている。

レベルアップ研修会報告

上三川町立北小学校 森 千鶴子

午前の講演は、スクールソーシャルワーカー（以下SSW）土屋佳子先生による「関係機関との連携～SSWの視点から～」でした。文科省によると、SSWは「社会福祉の専門的な知識、技術を活用し、問題を抱えた児童生徒を取り巻く環境に働きかけ、家庭、学校、地域の関係機関をつなぎ、児童生徒の悩みや抱えている問題の解決に向けて支援する専門家」として位置づけられています。土屋先生からは『「困った子は困っている子」と捉え、不登校やいじめ、虐待、貧困、保護者の状況などをよく理解すること、SSWなど外部関係機関と連携して校内体制（役割分担・責任分担）を整え、困っている子のニーズは何かを見極めて対応していくことが大切。「子どもの権利条約」は確認してください』とお話をいただきました。

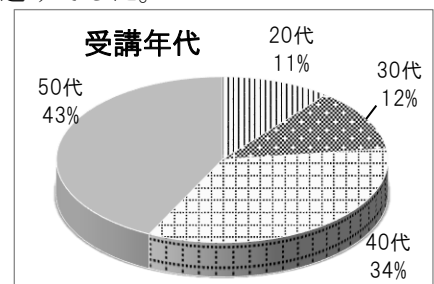
午後の講演は、メンタルトレーナー 加藤史子先生による「子どもに必要な許可」でした。「ムリ、できない」等心の声がマイナスに傾くと不安や不快な感情が強くなり実力が発揮できないが、「大丈夫、できる」等心の声をプラスに切り変えることで落ち着いて実力が発揮できるとのことでした。スポーツや勉強、受験にも効果があるそうです。また、子どもの頃「いい子でいなさい」「さっさとしなさい」「ちゃんとやりなさい」等養育者からのメッセージは頭の中に取り込まれていて、現在もそれによって自分が駆り立てられているものを「ドライバー」といい、ドライバーが高くなりすぎると業務や心身に障害が出るそうです。ドライバーには、「完璧であれ」「強くあれ」「努力せよ」「喜ばせよ」「急げ」の5つの行動の特徴がありますが、「80%でもいいんですよ」「甘えていいんですよ」等許可すること、折り合いをつけることで心が安定するそうです。また、リフレーミング（見方を変えること）によって、自分肯定につながるとのことでした。



レベルアップ研修会担当

今年のレベルアップ研修会は、作新学院大学作新清原ホールで行われました。定員200名で募集しましたが、申し込み期日を延長しても定員には満たず、157名の申し込みでした。

参加された先生方の感想では、「とても勉強になった」「わかりやすく興味深い内容でとてもよかった」「実践できるものがたくさんあったので、是非活用したい」「自分を振り返ることができた」など、講演内容に満足していただいた感想が多くあげられていました。例年課題となっていた会場については、市内中心部からは離れてしまいましたが、「会場がきれいで、駐車場も十分広くてよかった」と言う良い意見が多く出ました。



レベルアップ研修会は、「保健室ですぐに生かせる最新情報を学び、現場力向上を目指す」事を目的とし、会の運営により、誰でも参加しやすい夏休みに開催しています。養護教育研究会のホームページに報告を掲載していますが、充実した講師及び内容であり、“レベルアップ”の目的を果たしていることは御理解いただけると思います。しかし、今年度の課題として、若い先生方の参加が少ないことがあげられました。今後も、いただいた感想や意見を参考にしながら企画・運営を行っていきますので、20～30代の先生方、まだ一度も参加したことがない先生方は、是非一度御参加下さい！次も来ようと思える講師の方々をお呼びしています。また、講師の希望がありましたら、地区役員へ御意見をお寄せください。